

◆「令和の百姓一揆やまがた」への参加は、農業者の活気や連帯に気おされる一日となりました。さらに印象的だったのは、嶋遺跡公園で楽しむ家族たち。幼児・児童、そして若い親たちが、こなにもたくさん住んでいるのか、山形のこの辺りには。行進の後ろのほうでも、子どもたちがお祭り気分です歩いてます。ちょっと晴れやかな気分になりました。

大橋千佳子

◆文化の日を含む十一月三連休の初日。青森までいこうと、川越までで、駅券売機でチェックしたら、午前中のはやぶさがみな満席だった。青い森鉄道に乗るつもりだった。駅でしばらく思索していたところ、まだいっていなかった海芝浦（駅）が、頭に浮かんできた。鶴見線である。沿線に、兄が長く通っていた通勤先、火力発電所がある。人に面影が残っているように、駅名が残っていることもある。今号の「鶴見線」の話。

小野澤繁雄

◆つい最近まで、柚子の北限は栃木県の茂木町だと思っていた。我が大江町と交流があり、時折茂木町の柚子が入って来ていたからだ。だが、二〇一一年の震災後岩手県陸前高田市が「北限の柚

子」をブランド化し、力を入れて栽培していることがわかった。温暖化の影響もあり、北限が上がっているのだろう。サクランボも北海道で栽培しているという話も聞いた。ともかく冬至に南瓜と柚子風呂は欠かせない。「北限の柚子は震災乗り越えて」

神村ふじを

◆私たち小さな農産加工グループの経営の柱は餅である。この米高騰の時期に餅の値段を上げなかったからか、ある生協から毎回注文が昨年の二倍のペースで来た。十一月、十二月はほとんど休みなく働いた。朝七時に家を出て夜七時に帰るという日も度々。私たちの身の丈をはるかに超える受注を皆で力を合わせてクリアできたこと、自画自賛していいかな。それにしてもくたびれた。「展景」の原稿提出、丸一カ月遅れてしまったのはこのせい。すみませんでした。餅米は約四トンを加工し、残すところ一トンとなる。仕事は一月いっぱいでおしまいに。忙しくなるとピリピリしてきて感情的になり、年だけ取って練れていない自分に恥じてしまう。

去る十一月二十四日、山形市内で「百姓一揆」が行われた。私たちも万障繰り合わせて参加した。比較的若い人たちが実行委員になり、参加者も若者が多く、心強いものがあつた。デモ行進をした嶋地区はキラキラの家が建ち並ぶ新興住宅地。初めて訪れたが、ついこの間までは田園であつたことは容易に想像がつく。この平坦で水の利もよさそうな広大な田んぼが開発の波に洗われたのだな。中山間地は放棄されてしまった。地の利のよい所で生産高を上げるとすれば、機械化と肥料

や農薬の多投が基本になるだろう。複雑な気持ちにさせられた。十年、二十年後に食べ物を作る人がいなくならないことを願うばかりである。

新野 祐子

